「自衛隊馬毛島基地（仮称）の設置に伴う市民の不安と期待に関する確認事項」に対する防衛省回答に関する説明会（質疑応答集）

日時	校区	質問	回答
8月16日	榕城	①　市長は基地建設に同意できないとして当選したが、今年の2月頃から同意できないと言わなくなった。今回の確認事項も基地ができた場合を想定したもの。なぜ基地建設に同意できないのに建設を前提とした質問や回答を市民に説明するのか。	⇒　昨年末から本年1月にかけ国の動きが急になり、基地整備が決定され新たな局面を迎えた。今回の確認事項は問題点を整理したもので、市民の不安や期待を21項目示した。防衛省は基地を整備する意思があり、本市も整備した場合を想定し協議しなければ、基地が整備された際の市民の不安や期待への議論がかみ合わない。この確認事項の回答を個別に整理し考えたいが、市民も同様に考えてもらいたい。
〃	〃	②　国と地方自治体は対等であるが、この問題が対等・平等であるとの認識なのか。この回答では「努力します」、「認識しています」、「努めます」とあるが、違反した場合の措置をどうするのか。努力したが想定外だったでは平等とは言えない。確認事項を反故にされた際の対応を明示すべき。日米地位協定も米軍の犯罪は日本の自治権、警察権が適用できない。	⇒　国・地方自治体にはそれぞれ立場や役割があり、国民の幸福のため仕事しなければならない。自治体の長は、市民の安心安全、財産、利益、幸福を追求する立場である。地位協定や国防についても同様の考えであり、市民のためには国へ意見することもある。21項目の確認事項は、基地整備に係る不安や期待に対応してもらうよう求めたもの。その回答をもとに国の考え方を判断すべきである。
〃	〃	③　確認事項が基地ありきの内容である。基地整備は大きな変化であり悪いことにつながる恐れがある。馬毛島小中学校は売却したのか。	⇒　売却していない。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	④　もう反対の言葉もないのか。硫黄島の現状は把握しているのか。防衛省は鹿屋でも米軍のことは説明できないとしていたのが多かった。種子島上空は緊急時以外飛行しないとのことだが、緊急との理由で済ますのではないか。	⇒　まだ基地を受け入れることは決まっていない。防衛省は基地を整備する意思があるため、地元の声を聞いてもらうため協議の場を重ねた。21項目の確認事項の回答を踏まえ、しかるべき時期に自身の考えを示す。種子島上空の飛行は、確認事項や環境アセスにて質したが、引き続き、防衛省に対応等確認してまいりたい。 ⇒　硫黄島では毎年2回、土日祝祭日を含む10日間、連続した日程でFCLPが行われている。硫黄島の騒音は防衛省も確認できていない。
〃	〃	⑤　基地整備でトーチカ（最高値）は平坦にされ、馬毛島小中学校跡地は売却されるとしているが、活用について具体策はあるのか。交付金について長期的な制度設計とあるが、再編交付金の期間延長のことなのか。	⇒　H29年に馬毛島活用計画をまとめた。トーチカや馬毛島小中学校跡地は市民が納得する方策が必要。また、振興策に再編交付金を活用してとの要望が多く、同交付金の長期的対応が可能か確認したところである。
〃	〃	⑥　硫黄島の200～250㎞周辺に住民はおらず、アメリカ本国での飛行訓練は90㎞離れたところで行っている。アメリカ本国で10～12㎞離れた場所で訓練しているか確認して欲しい。また騒音は、防衛省が自主的に3年間は調査をするとしているが信用できない。防衛省予算で第三者機関に調査をさせるべき。	⇒　アメリカ本国での飛行訓練は防衛省へ確認する。仮に基地が整備されれば長期的なフォローは必要である。
〃	〃	⑦　確認事項は全て抽象的。最高裁でも地位協定が優先され改善されていない。世界でもFCLPをしているのは日本だけ。	⇒　地位協定の内容は多岐にわたる。全国知事会で多くの要望を行い対応するよう求めている。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	⑧　日本は戦争に負けており日米地位協定はあって当然である。日米安保条約があるから日本は平和である。基地をつくると標的にされると言うが、そうならないためにも、平和を守るため考えるべき。	⇒　戦争を起こしてはならない、平和のためやれることをしていく。
〃	〃	⑨　確認事項の内容は甘い考えである。「万一」のことを想定しているか。沖縄の現実を知るべき。	⇒　本問題を国民にも考えて欲しい。
〃	〃	⑩　宮古島で居住地から200mの場所で大規模な弾薬庫ができたが、防衛省は住民説明会で最後まで弾薬庫の存在を否定した。当時の市長の知らないまま弾薬が運び込まれていたことから、防衛大臣が謝罪した。馬毛島の計画は全て説明されているのか疑問である。自衛隊の訓練は夜間しないとしているが、岩国に配備しているF35の訓練は、沖縄まで行かず馬毛島で実施されると思う。自衛隊も米軍と深夜の訓練を行う。横浜国立大学の教授が騒音を予測し直したところ、西之表市住吉と中種子町浜津脇は防衛省が示す環境基準値を超えた。騒音による夜の睡眠障害が懸念されるが、日本では健康に問題ないとの判断をされている。	⇒　基地拡大や騒音などの防衛省の回答を吟味し対応していく必要がある。専門家の知見も参考にしてまいりたい。
〃	〃	⑪　出郷者（81才）が、基地ができるなら種子島に帰るのをあきらめると言っていた。	⇒　そのような方々の想いをしっかりと受け止めたい。
〃	〃	⑫　仕事をしながら育児をしている女性もいる。睡眠障害は犯罪につながる。	⇒　騒音について、環境アセスでも妊婦や乳幼児への影響を考慮するよう求めた。

「自衛隊馬毛島基地（仮称）の設置に伴う市民の不安と期待に関する確認事項」に対する防衛省回答に関する説明会（質疑応答集）

日時	校区	質問	回答
8月17日	下西	①　市長は基地関連交付金について、交付金を受給するため防衛大臣に特段の配慮を求めたのか。本市の地域振興は離島振興法でするべきでは。	⇒　年末年始にかけ国の動きが急になり、市民に基地に係る不安や交付金への期待が高まったことから、市民の意見を整理し、2月に防衛大臣に要望書を渡した。推進派からは再編交付金の要望が強く、本市に基地が整備されるのに、他町との関係に不満や不安を持っている方も多かった。よって、そのことに配慮していただくため特段の配慮を求めた。特段の配慮は、再編交付金と結び付けてはいない。
〃	〃	②　漁協や市は、漁業者に話も聞かず手続きを進めたせいで国は浚渫を始めた。騒音も馬毛島周辺で操業する漁業者に配慮していない。市が浚渫工事への意見を提出したことは間違っている。	⇒　基地整備により漁場の消滅が予想され問題意識を持っている。浚渫工事は、漁港管理者の立場で、漁船や操業の安全を勘案し許可をした。戦闘機の下で操業することの対応等検討したい。
〃	〃	③　漁業者は、岳之腰を目印に葉山港へ入港するので、座礁することもなく浚渫の必要はない。しかし、岳之腰が消失すると葉山港への進入が難しくなるので岳之腰は残すべき。	⇒　岳之腰は最高地で住民の生活と密接な関係がある。トーチカをトビウオ漁に利用してきたなど遺跡や遺構的な価値がある。景観の面でも夕日のシルエットになり、鳥類が上昇気流を利用し採餌することから確認事項でも取り上げた。確認事項の回答や市民の考えも踏まえ判断したい、
〃	〃	④　市長は同意できないとの反対の立場で当選したが、2月以降賛否を明らかにしない。市長は賛成か反対か。市長は自分の考えを示してから市民の意見を聞くべき。	⇒　年末年始にかけ国の動きが急になり、市民に不安や期待に係る意見が出てきた。その市民の考えを確認し一定の考えを示したい。ご理解いただきたい。
〃	〃	⑤　基地建設ありきで防衛省とやり取りをしているのか。	⇒　そうではない。市民にも賛否様々な意見があり、防衛省は基地整備の意思がある。市民の不安や期待に係る防衛省の考えを確認するには、基地整備を想定した協議が必要である。市長としては賛否両方の意見を尊重し最善の判断を下したい。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	⑥　市民間の話題で、交付金による減税や現金給付などがあるが、防衛省の説明ではできないとされている。税金や保険料、公共料金が安くできるか確認したい。	⇒　直接的に税金を免除するために交付金を充てることはできない。
〃	〃	⑦　移住者だが、恒久的に基地ができることに、今後の事を考えてしまう。	⇒　基地が整備された際の対応を、防衛省に確認しその回答を踏まえ判断する。9月議会が市長としての考えを申し上げる節目になる。
〃	〃	⑧　今後も市民の安心・安全、不安解消のため努めてもらいたい。馬毛島は西之表市の行政区域なので、多くの交付金が本市に支給されるよう努力して欲しい。下西校区に宿舎ができるが隊員が安心して生活できるよう配慮して欲しい。	⇒　ご意見として承る。
〃	〃	⑨　今後、市長の考えを示した時が市の最終判断となるのか。あるいは住民投票で判断するのか。	⇒　両方ともそういう観点の考えは持っていない。
〃	〃	⑩　再編交付金による地域振興策をどのように考えているのか。もっと早く市民の声をまとめ確認事項として提出できたのではないか。	⇒　本市には長期振興計画があり、それに付随するマスタープランを来年度にかけ策定する。早い時期での市民意見のとりまとめへのご批判はあるが、これまでもその都度最善の道を探ってきた。今後も同様に対処してまいりたい。
〃	〃	⑪　確認事項で騒音は示しているが、大気汚染や海洋、水質汚染、土壌汚染が言及されていない。航空機の重金属の化合物など子供に影響がある。種子島で子育てしやすい環境づくりを考えて欲しい。	⇒　今回の確認事項や環境アセスでも述べているが、大気質に係る長期的な把握を求めている。

日時	校区	質問	回答
8月18日	上西 国上	①　デモフライト時の音の数値を公表すべきである。騒音について、防衛省から普通のデシベルでなく難しい数値の説明があった。その数値についても教えて欲しい。	⇒　デモフライトにおける調査地点や音などは馬毛島だよりなどで周知した。防衛省は環境影響評価で法律に基づき騒音レベルを示したとしている。
〃	〃	②　市長は市民の分断を言い訳に賛否を明確にしないように感じる。分断の原因は市長の行動力の不足と発信力の弱さ、言動のあいまいさにある。交付金にたよらない地域振興策をこれまで具体的に示したか。市民の意見を聞く機会も設けていない。基地反対の信念を持って当選した頃の強い信念をもって、末代まで禍根を残すことのないようにしていただきたい。	⇒　厳しいご指摘として受け止めたい。年末年始で事態が大きく動き、市民から多くの不安や期待の声が寄せられたことから、協議の場を設け課題を整理し、確認事項として防衛省の考えを出してもらった。市民にも確認事項をもとに本問題を考えて欲しい。市長としては市民の考えを踏まえ判断したい。
〃	〃	③　確認事項に、米軍構成員の本市への出入りについて対策を求めているが、防衛省の回答は、我が国として米軍関係者であることのみを理由として、特定の地域への出入りを法的に禁止することはできないとなっている。しかし、馬毛島でのFCLPの期間は、米軍が馬毛島以外の地域へ行くことは想定していないとしているが、前段の法的に禁止することはできないとの回答と矛盾する。市としてこの回答の解釈と、馬毛島でのデモフライトが実態と合っていると考えているのか。	⇒　米軍構成員の行動に係る防衛省の考えを認識したところである。デモフライトは防衛省もFCLPそのものではないとしている。自衛隊の戦闘機の馬毛島周辺での飛行を体感するうえでは意味があったのではないか。
〃	〃	④　FCLPでの最大騒音は離発着時だと思う。騒音の実態が分からないまま基地化が進むのではないかと不安である。騒音のレベルを教えて欲しい。	⇒　騒音の予測結果は先ほどの説明通りだが、実際に馬毛島において飛ばすことができない状況下で防衛省として数字上の予測をしたと聞いている。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	⑤　硫黄島や厚木の12km離れたところで騒音の確認をしたのか。そこの住民や実際のデータを確認したのか。確認事項が解決したからデメリットが消えたとかの簡単なものではない。市長が特段の配慮を求めた背景はメリットの方が大きいと考えたからか。	⇒　騒音の確認のため岩国飛行場へ視察した。飛行場からおよそ10㎞離れたところでF35戦闘機で60デシベルを計測。6㎞離れたところでは離陸時に70デシベルで着陸時は60デシベル。滑走路のすくそばでは100デシベルを超えていた。昼間の時間帯での計測である。 ⇒　基地整備に伴うマイナスの影響はデメリットで、基地整備に係る振興策はメリットとしているが、どちらが良いかは人の感じ方もあり単純に比較できない。自分と違う考えにも耳を傾けてもらうため、今回の確認事項の整理を行った。基本的に本問題に係る私の考えは変わっていない。
〃	〃	⑥　訓練のスケジュールが事前に分かれば、身構えたり我慢もいくらかできる。	⇒　訓練のスケジュールは分からない。FCLPは米軍の都合で行われる。硫黄島でも5月に多くが実施されており、過去には8月実施や、5月と8月の年2回の実施もされている。
〃	〃	⑦　馬毛島はFCLPだけでなく、自衛隊機を含めると28,000回以上、年間150日以上で夜間も訓練する。市としてその事実を説明すべきである。	⇒　ご指摘は真摯に受け止める。
〃	〃	⑧　静かな種子島で療養する人もおり、騒音が響く島になれば行き場がなくなるとの話を聞く。市長の判断は市民の意見を聞かなければできないのか。	⇒　今般の確認事項に係る市民の意見を伺いたい。
〃	〃	⑨　21項目の確認事項への回答について、問題が残った場合、再度、防衛省と協議するのか。	⇒　確認事項に係る説明会を踏まえ、最終的に首長として考えをまとめ、市民の幸福のため判断する。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	⑩　FCLPの飛行経路で大崎と国上には横風用滑走路での夜間飛行が接近する。夜間は昼間の倍の高度で飛行するが、主滑走路の半分の距離しかない横風用滑走路で、なぜ短い距離で安定的かつ安全にFCLPが実施できるのか質問しているが一切回答がない。資料を見ても解明できないので防衛省へ確認して欲しい。	⇒　防衛省へ照会する。
8月20日	安納 伊関 安城	①確認事項21項目の防衛省からの回答について、市としては期待通りなのか、期待から大きく外れているのか。市民としてはあまり期待したような答えになっていない。もう1回、2回防衛省とやりとりをする必要があるのではないか。	⇒　協議の場を8回、環境アセスの作業も行ってきており、その中で防衛省と市が協議し、繰り返し問うてきた。再度問い直すという作業を半年ぐらいやってきており、それをまとめたものがこの確認事項である。
〃	〃	②馬毛島小・中学校跡地について、国は買いたいと言っているが、市は絶対に売らないという考えなのか、国との協議を重ねた上で、何か検討するのか。	⇒　利活用計画の中で学校跡地については重要な拠点として使うという考え方をもっており、防衛省は取得したいと言っており、考えが異なっているので、売るということは考えていない。
〃	〃	③馬毛島小・中学校跡地について、古く危険な建物で、トイレも整備されていないが、そのまま放置して活用するのか、莫大なお金をかけて整備をするのか。	⇒　危険で古い建物だが、使えるところもある。校庭で体験活動で昼食をとったこともある。防衛省の協力が得られればそれも視野に入れて検討していかなければならない。
〃	〃	④騒音について、基準値を下回っていると予測しているということは、防音対策に関して国は補償しないと言っているのと同等だ。基準値を下回ってもうるさいと思う人はいる。今の時期は窓を閉めたら暑い、エアコンをつけたら電気代がかかる。そうなった場合、市がその補償をするのか。それとも防衛省と交渉して70デシベル以下でも補償してもらうようにするのか。	⇒　騒音については、今回の参加者からも不安の声があがっている。市として今後どういう対応が必要かしっかり考えていかなければならない。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	⑤市長は、基地経済に頼らない地域振興を掲げていたと思う。確認事項で地域振興の記述があるが、どういうものを具体的にイメージして確認したのか。	⇒　1月に団体からの話を聞いた時に、交付金を使って地域振興ができるという意見を多数聞いた。一方で10年という期間が短いという声も聞いた。防衛省として、今回防衛施設のないところに初めて設置する、他とは違う特別なところに作るのであるということで、さらに一歩踏み込んだ、強化するようなものが具体的にあるかどうか確認したかった。基地経済に頼らないという考えは今も変わっていない。
〃	〃	⑥米軍構成員が西之表市に出入りすることがないよう対策を講じることとあるが、私としてはぜひ西之表市に来てもらいたい。米軍という書き方が人種的な見解がらみでも差別に当たるかわからないが、特定するのはいかがなものか。	⇒　馬毛島に作ろうとしている施設が米軍の訓練のための施設であり、市民から質問があったので、それを抜き出してこのような表現にして、防衛省に回答を求めた。人種差別とかそういうこととは関係ない。
〃	〃	⑦基地の機能強化及び自衛隊や米軍の訓練の追加を行わないことは、多くの市民が懸念している。防衛省の回答のように、行政としては、1回1回確認すると書いているが、どのような理解か。これでいいのか。感想を伺いたい。	⇒　防衛省がこう回答しているということ。これについての評価、感想は、市民の意見を聞いた後に私の総合的な考え方はお示ししたい。
〃	〃	⑧防衛省は測定値が基準を上回ったか、下回ったかで評価するようだが、私は市民がその音にストレスを感じたかどうかで評価してもらわないといけないと思う。大臣も総理大臣も地元の民意をちゃんと聞くと言っているが、今のところ全く双方の信頼関係が無い。	⇒　ご意見として承る。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	⑨今回の回答書は、基地が建設されたとすればという前提でのものだが、例えば、市長が基地建設断固反対と言ったとすればということの回答を防衛省に求めることは今後あるのか。	⇒　アセスも含め、協議の場でやってきたことのとりまとめとして今回のものを出した。市としての考えを防衛省に返し、市民や議会にも説明していかないといけない。質問のような方向で出した場合にどうとるのかは、これからのことだと思うのでしっかり考えを整理したうえで判断し、明らかにしていきたい。
〃	〃	⑩漁業経営上の損失も適切に補償しますとあるが、適切に補償とはどういうことか。もう1回防衛省に市民から質問があったと再度確認するということで良いか。	⇒　騒音や補償等の問題について協議して、一度返ってきたものについて足りないと思ってこういうふうに確認した。 キャッチボールの作業を重ねても防衛省の答えはあまり変わらないのではないかという印象は持っている。しかし、重要なところは、さらに具体的なものを引き出す努力をしていかなければならない。
〃	〃	⑪緊急時を除きお示しした以外の飛行経路を飛行することはないとの認識、緊急時を除き西之表市上空を飛行することはありませんとあるが、緊急時とは具体的にどういう事態なのか。	⇒　防衛省の回答ではないが、例えば墜落や衝突の危険性があるときまで、上空を飛ぶなということは言えないだろうということが、緊急時だと考える。
〃	〃	⑫FCLPはパイロットの技能テストであり、飛行経路以外を飛ぶパイロットは不合格になる。そのため、ほぼ100%、飛行経路をしっかりと守って、試験に合格するような飛び方をすると理解している。	⇒　上空を飛ばない対策（訓練外を含む）と書いているが、これは国内で上空を飛んだり、低空飛行をしたりした場合に、移動を訓練と説明している場合があるため、それを想定したことである。
〃	〃	⑬確認事項は市民の不安に関する確認が多い。市長の口から、期待に関する確認事項の内容をお願いしたい。	⇒　基地ができるとすれば、種々の交付金補助金が発生するので、それについての考え方ということでまとめたものである。

日時	校区	質問	回答
8月21日	榕城	①日米地位協定における治外法権の問題が解決されない限り、我々の生命と財産、確認事項の内容は守れないと思うが、今の段階で市長は防衛省の計画を容認することがあるのか。 　市民はこの判断をどのような方法で出すことができるのか。具体的に示してほしい。市民は住民投票や選挙でしか判断は下せないと思っている。 　馬毛島問題は国会で議論される大きな問題だと認識しているが、なぜ、市長は総理大臣に対して働きかけをしないのか。	⇒　地位協定にかかるものは多岐にわたり、確認事項の全般にも関係している。私の考えはそう遠くない時期にしっかりお示ししたいと思う。 　住民投票は今のところ私は考えていない。こうした説明会やいろいろなところで市民の皆様の考えを伺って、それを基に私の判断の基礎とさせていただく。 　防衛省宛ての要望書などを作ってきたが、総理大臣に対応していただきたいという思いで作っている。まずは現実的に対応しなくてはいけないので、相手は今のところ防衛大臣だが、今後おっしゃるような展開も考えなくてはいけない。
〃	〃	②合同庁舎に防衛省の出先機関があると聞くが、議員からも交渉に関わって情報を流せと言われていると思うが、なぜそれをしないのか。交渉しているという認識はあるのか。	⇒　市の担当者あるいは課長が事務的なやりとりをしており、重要なものについては報告を受けている。防衛省が事務所を設ける前からやりとりをしており、協議は続いていると思っている。
〃	〃	③国のど真ん中にいる人たちは、私たちに何かあっても、知らぬ存ぜぬで通すと思うが、市長はそのような方たちが本気でそういう問題に向き合ってくれると思っているのか。	⇒　市民の不安にしっかり向き合ってもらわなくてはいけないと思っている。市民の不安について、しっかり認識してもらって、その具体的な対策というのを示してほしいというのが、防衛省と協議してきたねらいである。
〃	〃	④沖縄を見れば、米軍人、軍属による性犯罪が非常に頻発している。防衛省の答えは、訪問することは想定されていないとなっている。市長には、明確に禁止しますと言うことを防衛省に言ってほしい。子供の将来を守るためにぜひお願いしたい。	⇒　禁止するという言葉を使うかどうかについても検討したが、こういう形で整理した。防衛省の回答のあり方が重要になってくる。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	⑤この確認事項は、もう認めたということでの確認事項であって不安になる。市長もはっきりした態度を示して我々市民が安心できるようなことをあなたの言葉で述べていただきたい。	⇒　基地ありきではないかという印象を持っておられるということだが、そうではない。基地が建設されるとすればという仮定だ。基地ができることをイメージして課題、問題がどういうふうにあるのか、できるだけ多くの課題を出して、それについての考えをもう一度防衛省に質すということである。 　賛成、反対の声をしっかり聞いたうえで、市長としての考えをまとめたい。
〃	〃	⑥市長選挙の時に公約をした、そして当選した市長はそれを貫くのが政治責任ではないか。 　声なき声、市民の思いや不安や意見はどのようにして聞くのか。	⇒　年末年始にかけて政府が予算の閣議決定をもって基地の整備決定とみなすとなり、市民への衝撃はものすごく大きかった。私の本来の思いはあるが、それに同調してくれる人も、全く違う考えの人もいる。国と協議をする場合に、片方のところで協議することができないことがあるため、私は発言は慎重にしてきた。その結果防衛省と協議の場を設けて協議ができている。私は選挙を経てこの地位についている。最後には私が決断をする。 　市民と接するあらゆる機会を使って意見を伺うということはこれまでも心掛けてきた。市民の皆さんのご意見というのも、常に聞く耳を持って対応していくという考えで臨んでいる。
〃	〃	⑦地域おこし、産業おこしが一番の課題。賛成派、反対派が激論を交わして、国の政策を地域に近いような形にしていくのが一番の課題である。賛成派、反対派の人たちが会合をする、そういう努力をする。そうすると市長も判断するのではないだろうか。	⇒　ご意見をしっかり受け止めていきたい。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	⑧これまでの防衛省がとってきた態度は、地元の意見を尊重したと言えるか。今日国と地方は対等であるはずだ。質問の1、FCLPの際の飛行経路は示された経路以外を飛行することはないと認識しているという回答だが、緊急事態に対応するためにやむを得なかったと片付けられるのがオチだ。一度でもそのような事態が生じた場合は、以後のFCLP訓練は完全に禁止すると約束すべきだ。自衛隊の訓練については、現時点では深夜、早朝の計画はありませんとあるが、現時点ということは、将来はありうると言っている。訓練が始まって数年後に、苦情が上がって、議会も市も防衛省に掛け合っても、防衛省としては米側に申し入れるとして相手にされない。再編交付金は、個人に交付されるわけではない。税金が下がるわけではない。デモフライトも深夜実施すべきだ。これを体験しなければ、安心は、確認できまない。岳之腰は一番のシンボルだ。これは現状保存すべきであり、できないなら、計画は中止すべきだ。学校跡地は、今後の馬毛島における環境学習の拠点として確保すべきだ。豊富な漁業資源の喪失にもなる。マゲシカを轟音のもとにさらすのは動物の虐待になるのではないか。以上のようなことから、この馬毛島の基地建設計画についてはきっぱりと断念していただくように申し入れるという態度をとっていただきたい。	⇒　ご意見をしっかり受け止めていきたい。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	⑨市民が分断している。市と防衛省で信頼のおける対話ができていない。これが解決しなければ馬毛島問題は解決しない。地域社会、コミュニティが崩壊してしまうことを一番危惧しているが、そういう危機感があるのか。	⇒　重要な問題だと認識している。市職員一丸となって対応していきたい。
〃	〃	⑩市長は市民の意見を聞いて私の考えを述べると言った。住民投票は考えていないと言った。市としての最終決定は自分が行うと言ったということか。 　公約に即した行動であれば最終的な市長の決断で良いと思うが、公約に反した行為であれば再選挙課、住民投票を行うべきだと思う。	⇒　市政におけるいろいろな決定事項を最終的に市長が判断する。その責任を市民の皆さんから負託されているというふうに考えている。この問題については、最終的には市長として私が判断して決定する。それについては、こういう機会を利用して市民の皆さんの意見をしっかり聞きながら参考にしていく。
〃	〃	⑪防衛省は西之表上空は飛ばない。そのように米軍と調整をするという回答だ。しかし飛ばないとする根拠はどこにあるのか。根拠を示すことができないのであれば、FCLPをやめる以外にない。 　横瀬に大きな防波堤が造られるが、漁業者は自由に出入りできるのか。それとも入れないのか。ほとんどの期間上空を爆音を響かせながら飛び回るのだが、そういう環境で漁業者は平穏に漁業が行えるのか。 　訓練中に操業ができないとすれば、これは未来永劫となる。未来永劫の漁業補償料はいくらになるのか。 　今こそ市長は、学校敷地は売らない、市道は廃止しないと明確に防衛省に通告していただきたい。	⇒　防衛省に対して、港湾施設は海域に影響があるので、環境影響評価に加えるべきだと言っているが、これは含めないという考えが示されており、未解決となっている。漁場が消失するようなことも考えなくてはいけない。今後の大きな課題である。 　学校、市道については、市の活用のあり方という構想は持っており、防衛省は取得したい、廃止したいということがある。市は考え方が異なっているのでそのことは申し上げた。
8月21日	現和 立山	①地位協定について具体性がない。沖縄の実情や現状にも触れていなくて意味がないと思う。防衛省の回答も抽象的で努力事項でしかない。回答は不要。	⇒　回答不要とのご意見。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	②今回の防衛省の回答に対して、市長は納得しているのか、それともやっぱり以前と同じように答えになっていないと思っているのか。	⇒　基本的に求めていることはその課題について具体的な対策を具体的な形で示してほしいということ。納得しているかというと、満足しているということではない。
〃	〃	③交付金はアメとムチのアメであり、税制の面からいくと歪な使い方だ。農業は農林水産省、教育は文科省、コロナは厚生労働省など、そういう道を通るのが正しい使い方だと思う。市長も交付金とは何か議論してほしかった。交付金を使って町を活性化するとどうなるかもう一度市長も考えてほしい。	⇒　基地の整備に伴って交付されるものに、再編交付金や民生安定のための補助金などがある。それとは別に従来の他の省庁を通じての交付金、補助金の仕組みがある。どれを選択するか考えなければいけないところだと思う。
〃	〃	④市長には、全ての市民が意見を表明できるようなやり方をやったうえで市長としての結論を出してほしい。一つは、市長としての意見を表明する前に市長を辞任して、市長候補の一人として自分の意見を言って、市長選で市民の審判を受けてほしい。二つ目は馬毛島基地建設の是非に限って住民投票を行ってほしい。その投票の結果を受けて市長としての考えを表明してほしい。	⇒　ご意見として承る。
〃	〃	⑤航空機騒音について馬毛島基地（仮称）運用開始後3年程度とあるが、3年の基準は何か。 　再編交付金がおりたら、地方交付税が削られると聞いたことがあるがどうか。 　漁業補償に関する漁業への影響や、農業に関する畜産への影響など、そのデータについても押さえて、何かあった時にしっかりと提示できるような体制を取った方がよいと思う。	⇒　環境監視調査が3年という根拠はわからない。市としてはもし仮に基地ができるとすれば、その影響については、ずっとフォローして把握しなければならないと考えている。 　再編交付金について、地方交付税に影響を及ぼすものではないと認識している。 　漁業の水揚げがどうだったかなど、その辺のデータはしっかり押さえていきたい。畜産についても、環境アセスで触れている。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	⑥外周道路の工事が進められているが、これの漁場に対する影響は相当あるのではないかと思う。民間会社の工事の際にもいろいろな対策を講じたが、泥水が出て相当な被害が出た。市長はこのような被害に対してどのような考えを持っているか。 　防衛省は馬毛島のすべての土地を取得したいとある。防衛省は漁民に馬毛島周辺の漁業権を全部放棄させようとしているのではないか。市長はどのように考えるか。	⇒　市としてはアセスで影響を評価すべきだと再三言ってきた。今進行中のアセスにおいても、それを示唆する形で影響をしっかり見極めて配慮すべきだという意味合いの意見を出している。 　漁場の消滅ということも視野に入れて対応、そうならないような対策を講じるように、影響がある場合にはしっかり対応するということを確認事項でも指摘した。これで結論が出ているということではなく、今後の協議でも取り上げていかなくてはいけない課題だ。
〃	〃	⑦公約は主権者、市民との社会的契約だ。これを安易に破ってはいけない。もし変更するなら契約相手の同意が必要だ。市長が容認に変わることがあるかもしれないが、その場合は、同時にその場で辞職を表明していただきたい。	⇒　回答不要とのご意見。
〃	〃	⑧市民の意見をどういう形で聞き取っていくのか。	⇒　この説明会の場がそれにあたると思う。これまでも機会を捉えて皆さんの意見を聞くようにしてきた。
〃	〃	⑨今日の対象は立山校区と現和校区の有権者、小さな子供も来てよかったと思うが、今日の参加人数を見れば歴然だ。これで市長は市民の意見を聞いたと考えるのか。 　市民の意見を聞きながらというのは進行形だと思う。これで終わりにされては市民は全く意見は届いていないというふうにしか思えないと思うがどうか。	⇒　一人でも多くの市民の皆さん、若い方からお年寄りを含めてたくさんの方から意見を聞きたいと思って、このような形となった。市民の声を聞く姿勢は持っているつもりである。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	⑩馬毛島問題は騒音が無ければいいのか、事故が無ければいいのか。そういう問題も否定できないが、市長は市民の安心安全な生活、平穏な生活を守る。私たちに戦争とは何か、平和とは何かを私たちには語っていただけなかった。残念だ。	⇒　戦争を起こしてはならないということは、常日頃私も思っている。議会でも質問があったときにはお答えしているし、機会を見て、そういう場ができれば発していきたい。
〃	〃	⑪先ほど葉山港の浚渫工事について、防衛省のための工事で、漁民のための工事ではないと参加者が言われたが、私は市長の判断は大間違いだったと思うが、市長はその点について間違いだったと思うかどうか。	⇒　漁港管理者として、漁業操業の安全を守る観点から判断した。
〃	〃	⑫馬毛島に基地ができて、米軍FCLPも、そして自衛隊の各種訓練も毎日のようにされたときに、市の将来像「人・自然・文化-島の宝が育つまち」を実現することが可能だと考えるか。	⇒　確認事項を整理し防衛省に回答を求めた。これがこのまちづくりにどう影響するのか、基地をつくることがこのことに叶うのかということはしっかり考えて対応していかないといけない。
〃	〃	⑬市長が市民の声を聞くときに、区長や団体の長に意見を聞く。その場合、その団体で本当に議論したのか、会長・代表の独自の判断なのか。どのような意見がでて、どのような割合で賛成、反対に至ったのか。市は調査しているのか。校区会に入らない人もいると思うが、自衛隊問題は国策であり、校区会に入らない人も当然意見を言うことができる。	⇒　団体の中でしっかり話をしていただきたいということはもちろん前提の上であり、基本的に幅広く多くの方、年齢に関わらず意見を聞きたいという考えはある。
8月22日	中割 古田 住吉	①有事の際の島民の避難について、具体的なことは何もでていない。島民の避難を考えるのであれば西之表市、中種子町、南種子町に何百人、何千人も収容できる防空壕を確保してくれるかどうかを確認してほしい。	⇒　国民の避難計画を西之表市として作っている。しかしそれは具体的なところが極めて不十分である。細かいところをこれから、しっかり具体的なものにしていくような作業が今後必要になってくる。国とも継続して作っていかなければならない。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	②この問題は、最後まで、ゆっくり話し合って、早急に決めないで時間をかけて、テーブルについて、まだいろいろな会話があると思うので、慎重に考えて対処してほしいと考える。	⇒　早急に決めないで、話し合いをしてっていう話をしながらやっていきたいという、その思いで今回の確認事項を進めているというこである。
〃	〃	③市長は葉山港の浚渫工事に許可を出したということは、賛成に切り替わったんじゃないのか、もう後戻りできないと私は考えるが、どういう理由で賛成したのか。	⇒　漁港管理者として、安全を考えたうえでの措置である。
〃	〃	④今の日米地位協定ではやりたい放題だ。例えば事故があった場合に、日本の調査権が及ばない点を危惧している。市民の目線に立って、安心安全を追求していただきたい。 　市長には公約を守り抜いて、自衛隊のアメリカのための基地建設には断固反対してほしい。	⇒　地域の安心安全というのは非常に大事なことであるので、今のご意見をしっかり受け止めて対応していきたいと思う。地位協定については多岐にわたる課題を踏まえての確認事項であるので、防衛省がどういうふうに答えているか参考にしていただきたい。
〃	〃	⑤騒音に悩まされることで、健康被害を生むかもしれない、そういうことが想定される中で何か起きたら対策を講じるということでは、不安は払しょくされないと思う。馬毛島に基地ができたら、今の景観、馬毛島小中学校跡地、豊かな漁場も失われる。国民、市民は置き去りにされてしまうのか。市長には同意できないという思いを貫いていただきたい。	⇒　例え基準より小さくても、それまでそういうものもなかった種子島の静けさから言えば、非常に大きく感じる人たちがいるという認識がある。私のこの問題への対処としては、市民の安心安全を守る、幸福を追求する、利益を追求するという考えについては、一切変わっていない。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	⑥各団体からの意見聴取の際には、会長、理事のほとんどを容認、賛成の立場の方々が占めており、私のように異なる意見を聞いていただく場面はなかった。再編交付金や自衛隊による一時的な人口増を商工業、農林水産業の起爆剤あるいは即効性のある手段として考えているのであればそれは幻想ではないか。地域活性化と基地問題はまったく別の問題であり、分けて考えるべきだと思う。 　種子島の海産物は我々の事業においても貴重な資源である。その資源が失われ、漁をする方が減ってしまえば、我々にとって大きなダメージだ。漁業、畜産、酪農が基地建設による影響を受けることで、補償の上に成り立つ状況になるとすれば、本当の意味での地域振興、経済活性化と言えるのだろうか。市長の考えを聞かせていただきたい。 　これから表明される市長の考えは、今後の基地計画においてどのような影響をもたらすのか、その効力について教えていただきたい。	⇒　酪農等については出てきていないが、環境アセスではその点についても指摘し、影響についてしっかり考えるように意見を出している。 　市長にいろいろな状況、国の考え方、不安や期待に対して防衛省がどう対応するのかをしっかりと判断した上で、その根拠を持たなければならないと思っている。直接効力があるかどうかは、市長の判断が今後の推移に影響を持つものだということを信じてやっている。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	⑦FCLPの目的は、空母艦載機のパイロットの技能を実地で試験をするものであり、予定の周回コースを大きく外れて種子島上空を飛ぶようなことなどがあれば、そのパイロットは即失格となる。空母艦載機の操縦資格を喪失することになる。 　夜間の騒音についてサッシを閉めることで遮音効果がある。しかし、古い家については、このサッシを使っていないところも結構ある。FCLPが開催されたときに夜間の騒音による睡眠障害が発生した、あるいは発生する恐れがあるときには、速やかに防衛省に住宅用サッシに取り換えてもらうように処置をお願いしたいと思う。3年間継続的に測定すると言うが、屋外ではなく古い住宅の寝室の中でも測定をお願いした。	⇒　ご意見をしっかり受け止めて対応したい。
〃	〃	⑧航空機騒音をはじめとする基地に関する市民からの問い合わせに対しては、国により責任をもって対応することとあるが、市が責任をもって対応するべきじゃないか。	⇒　基地問題に対応する際は市で受けるべきか、あるいは両方で受けるべきか、そういったことも含めてしっかり検討をしていきたいと思う。
〃	〃	⑨障害者や高齢者、子どもたちやおとなしい人など、自分の意見を言えない人はいっぱいいる。声なき声を聞くために今後何を努力するのか。	⇒　障害者関係の団体、お世話をされている方からも意見を聞いた。直接この問題についての話はされなかったが、自分のご意見を言われない方とも会話はした。私として受け取ったものは参考にさせていただいている。今後ともその姿勢は保持していく。
〃	〃	⑩9月議会で所信表明のときにはっきりしたことを言うのか。国がやっていることに対して市長がどのような決断をくだすか、もしあやふやで自分擁護の立場を貫くならば、それこそ辞任してほしいと思う。	⇒　9月議会が迫っており、一定の判断材料が出てくるので、考えを述べる一つの節目であると申し上げた。その考えを皆様の意見を伺いながらまとめていきたいと思う。具体的な期日は申し上げられない。

日時	校区	質問	回答
〃	〃	⑪馬毛島の学校跡地に工場を建てて、薬草によってお年寄りが収入を得られる。若者が他所に出ないようにここで働けるということを私はいつも願っていた。	⇒　貴重なアイデアとして承っておきたい。
〃	〃	⑫観光産業は種子島の経済振興にとって大変重要な課題だと思っている。観光はイメージ産業であるが、その辺の視点が欠けているような気がする。 　騒音の問題については、いろいろなところで実測して、住民にヒアリングするなど、幅広く確認をしてほしい。 　市長がもっと早く皆の声を聞くべきだった。もっと丁寧に市民の声を聞いて、もっと冷静に、勇気をもって前に進んでほしいと切に願う。	⇒　身を引き締めてまいりたい。観光については、環境アセスの中で触れているので参考にしていただきたい。
〃	〃	⑬住民投票を行って、西之表市は賛成、反対を決めたほうが良いのではないか。市長にそういう考えがあるか、ないか。 　来年3月で葉山港の工事は終わる。そしたら自衛隊の港をつくる。来年の4月から準備を始める。そしたら市はどうするのか。	⇒　4年の任期をいただいているので、首長として、市民の皆さんの負託にこたえる形で、責任をもって私の任務を全うしたいと思う。住民投票の考えは持ち合わせていない。